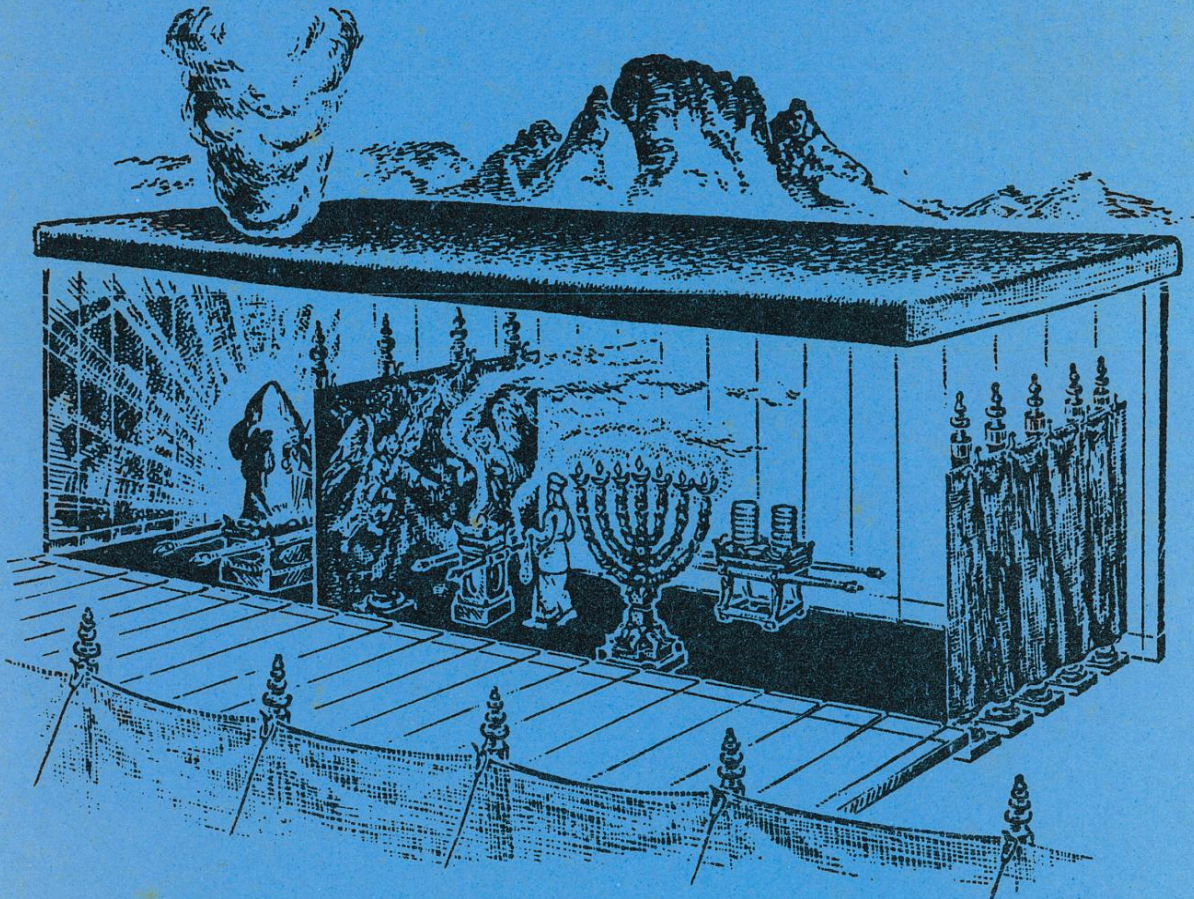




Anchor

アンカー



『神よ、あなたの道は聖所にあり。』詩77:13 (英)

『われわれは今、大いなる贖罪の日に生存しているのである。』

大争闘下 224

この望みは、わたしたちにとって、いわば、たましいを安全にし
不動にする錨(いかり)であり、かつ『幕の内』にはいり行かせる
ものである。

ヘブル 6:19

第6号

★ 目次 ★

最後のあがないの働き—理解の重要性.	1
聖所としての人間.	3
ビリー・グラハムと法王：ニュース解説.	10
ビリー・グラハムと法王教.	16
クリスチャンと努力： 真理の宝石.	25
サムソン—SDAに何を教える？.	30
質問：バプテスマ—人数増加について.	34
小食—過食—エジソン.	35

◆アンカーの目的◆

我々は次の事を信じてアンカーを出版している。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使のメッセージである。(6T p.384, 2SM p.142)
第三天使の使命が再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。
(9T p.98, GCII p.140)
2. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の特別な贖いを受け
る。
(EW p.414, 5, 7)
3. 我々は神のもくろまれたこの特別な祝福、特別な体験を拒み続けてきた。特に1888年以
来。
(RH 8/26, 1890)
4. ダニエル書8：14 — 聖所の解明に御業の完成はかかっている。
5. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。
6. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー（錨）は三重の天使の使命、聖所、
安息日、人の性質、イエスの証（預言の霊）等である。
(EW p.417, 1T p.300)
7. アンカーにはリレーの最終走者の意味がある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世
界に完成する最後の時代と信じる。不信仰によって、140年も時は延ばされ、イエスの十字架
の苦しみを増している（GCII p.182, Ed p.328）。信仰の義認の体験によって、再臨を早める
ことをキリストは待っておられる。再臨と御業の完成をこれほど遅らせているのが我々神の民
であるとするならば、我々の今日の義務は何なのか、約束のものを受ける条件は何なのかを研
究し、共に備えたいと思う。

☞ **至聖所におけるキリストの最後のあがないの働きを理解することの重要性!**

☞ この最終時代のための最後の働きに啓示されている、大いなるあがないの働きは綿密な吟味がなされなければならない。天の聖所に関連した光景は、他の人にもまた印象づけることができるようにすべての者の知性と心に印象づけられなければならない。すべての者は上なる聖所で進行しつつあるあがないの働きに関してもっと知的になる必要がある。この偉大なる真理が悟られ、理解されるとき、それをしっかりつかむ者は、神の大いなる日に立ち得るように人々を備えるキリストの働きに調和して働くであろう、そして彼らの努力は成功するであろう。研究と、瞑想と、祈りによって、神の民は平凡な、地上的な考えや感情から高められ、キリストと民の罪から上なる聖所を清めるその大いなる働きに調和するようになるであろう。彼らの信仰は聖所に入って行き、この地上の礼拝者は彼らの生活を注意深く吟味し、義の大いなる標準と彼らの品性を比較するであろう。彼らは自らの欠点を見るであろう。彼らは神の大使達にゆだねられたこの時代の大いなる、厳粛な働きのために適した者となるためには、神のみ霊の助けがなければならないことを知るであろう。

5 T 5 7 5

☞ 各自は、今、神に裁かれようとしている。各自は大いなる審判者と顔を合わせなければならない。とするならば、審判が始まり、数々の書物が開かれる厳粛な時のことを、ダニエルとともに、定められた日の終わりに立って、自分達の分を受けねばならない厳粛な時のことを、たびたび瞑想することは、すべての者にとってどんなにか重要であろう。...

☞ 天の聖所は、人類のためのキリストのお働きの中心そのものである...
すべてのものが、これらの問題を徹底的に研究し、彼られのうちにある望みについて説明を求める人に答えることができるようにすることは、何よりも重要なことである。

大下222

☞ 贖罪の日の実体である今日、我々が我々の大祭司の働きを理解し、どのような義務が我々に要求されているかを知ることは、どんなにか重要であろう。

大下148

- ☞ 聖所と調査審判の問題は、神の民にとってはつきりと理解されねばならない。すべての者は、自分達の大きいなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあつて必要な信仰を働かすことも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。
- 大下222

☞ 1. 最後のあがないの働きを理解しないで聖霊の約束は決して成就しない。聖霊の約束は信仰の応答として果たされるものであるから。至聖所におけるキリストの働きを正しく理解しないでは、現代に必要な信仰を働かすことはできないからである。では今日のキリスト教派における聖霊のバプテスマ騒ぎは何を意味するのだろうか？「大争闘」「初代文集」によると、偽のリバイバルである。今日、我が教会の「聖霊のバプテスマ」を求める訴えとセミナーは、いっさい「至聖所における最後のあがない」にふれていない。信仰を至聖所のキリストに向けないで、大祭司としてのキリストの働きを知的に理解しないで、後の雨を受けることはないどころか、非常に危険である。なぜなら、サタンがその霊を吹きこむからである。初代文集124-126を見て頂きたい。今日、我が教会の集会にもエレキ音楽、騒音、体の揺さぶり、ドラムが入りつつある。恩恵期間の終わりの前にインデアナポリスで、我が教会で起こったことがまた起こると預言されている。 2 SM36

☞ 2. SDAとしての立場を失ってしまう。今日、米国で7.0%の青年たちが教会離れするという。根本的な理由は、至聖所におられるキリストを見失ったことだ。SDAでなければならない理由は、最後のあがないの働きである。それは再臨信仰の土台であり、大黒柱である。彼らにとって、キリストが至聖所に入られたことは何の意味もないのである。

サタンの憎む大真理!!!

サタンは、数えきれないほどの策略を考え出して我々の心を捕らえ、われわれが最もよく知っていなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである。

大下221

* 再臨の切迫、安息日の真理、死後の状態、いわゆる信仰による義を熱心に説いても、... 伝道活動、改革にいかにも熱心であっても、至聖所におけるキリストの最後のあがないの働きが理解されないならサタンは別に気にとめないであろう。なぜだろうか？

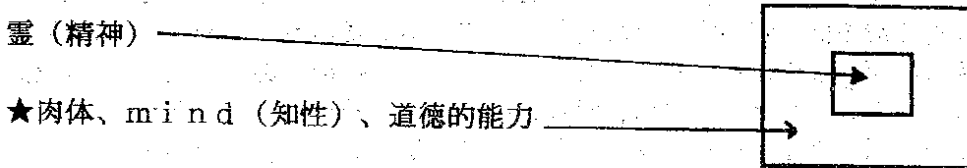
もしあなたが「アンカー」前号の記事を読まれたなら、人とキリストの性質という主題について我々が討議していること、そしてそれが我々とのような関りがあるかが分かるであろう。言い換えれば「なぜこのような研究をするのか？」との質問に答えようとしてきた。理由の一つは、近頃様々な教理の風が吹きまくっているからである。この問題に関してかなり急進的な考えもあれば、真のアドベンチスト（再臨待望者）信仰に極めて類似しているものもある。各々の新しい教えは人とキリストの性質に関連して、それぞれの新しい見解をもっている。聖所の清めに関する教理を適切に理解するためには、この主題について正しい理解を持つことが、絶対に必要である。この教理は他の重要な問題にも関連している。例えば、「聖所とは何か？」また、「天国に聖所はほんとうに存在するのか？」等である。

過去において、今日我々に関係のあるこれらの論点について討議してきたし、またこれからも討議するであろう。この連載記事は教理のための教理を取り扱っているのではない。できるだけ明瞭かつ単純にするよう努めていくつもりである。

二つの性質

「アンカー」前号では、キリストがその人性において二つの性質を持っておられたという概念について触れた。それは肉体的、靈的性質である。無論、すべての人間についても同じである。人は肉体的性質と靈的性質を備えている。人の肉体的性質という場合、ただ体、その中の組織、器官、神経ばかりでなく、知的、道徳的能力も含んでいる。人の靈的性質という場合は、精神、心、靈、魂という描写しがたい部分を言う。

肉体的、靈的性質は互いに作用し、関係しあっている。人はその人の道徳観に影響を与える弱い肉体と、その人の肉体的性質を悪用し、墮落させる弱い、靈的性質を備えている。下の人間の性質を描いたイラストは、靈的性質と肉体間の関係を表わしている。それについて触れる目的は、後々この記事で再び取り上げるうちにもっとはつきりと分かってくるであろう。



通常、人の性質は3つから成りたっている。——霊と心とからだ。またパウロは「肉と霊」「外なる人と内なる人」というように2つに分けていることがある。「性質」という場合、肉体的、知的、靈的な面を言っている場合と、品性を指す場合があるが、どんな使い方をするかは文脈で知ることができる。例えば「肉」と言う言葉も、「体」の事を指している場合と、「生まれつきの性質」を指す場合がある。「霊」と言う言葉も、「心」「精神」「魂」を指す場合と、「息」を指す場合がある。どちらを意味しているかは文脈で判断するのである。

ここではパウロが言っているように、「肉と霊」「外なる人と内なる」のように人の性質を2つに分けて説明していきたい。つまり、肉体的性質と靈的性質と。

神の宮とは何か？

「あなたがたは知らないのか？自分の体は、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、...」1コリント6：19

「あなたがたは神の宮であって、神のみ霊が自分の宿っていることを知らないのか」1コリント3：16

かつて人の心は純潔で、その体は極めて丈夫であったことを我々は知っている。人が悪を選んだ時に、その良きものすべてを失ってしまった。アダムが墮落する前、神は聖霊の力の内に、すなわち魂の宮である人の内に住まわれた。キリストはこの地上に来られ、聖霊の内住によってあらゆる誘惑に遭われ、すべての罪に抵抗する事がお出来になった。彼には聖霊が「限りなく」与えられていた。人としてキリストは聖霊の宮であった。

我々は神の宮

キリストが聖霊の宮であられたように、神は人の内にもお住みになりたいと望んでおられる。我々がキリストのように罪に完全に勝利することができるように、神は我々に聖霊の賜物をお与えになりたいと望んでおられる。

「輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となる事が、永遠の昔から神の目的であった。罪のために人類は、神の宮となくなかった。人の心は悪のために暗くなり、汚れたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。しかし、神のみ子の受肉によって天の神の目的は達成された。神は人類の中にお住みになり、救いの恵みを通して、人の心は再び神の宮となる。神はエルサレムが、すべての魂にとって可能な高い運命についての絶えまない証となるように計画された。しかし、ユダヤ人は彼らが、非常な誇りをもって見ていた建物の意義を理解していなかった。彼らは自分自身をみ霊の聖なる宮としてささげなかった」希上18：6

イエスの時代のユダヤ人たちが理解し損なった同じ点において、我々も理解し損なったということがあり得るのだろうか。我々は、最終時代のさばきにおいて清められる宮となるのだろうか？天における宮の清めは、魂の宮の清めを象徴しているのだろうか？記録の書以外に何か、清められるべきものがあるのだろうか？これらの書は、何か他のものを象徴しているのだろうか？宮の清めについて語るとき、我々は、我々自身について語っているだろうか？次にあげる引用文はこれらの質問に答えてくれるはずである。これは贖罪の日、すなわち年毎に行われたユダヤ人の儀式のうちで神の民のためになされた最後の働きについて書かれた章から取られている。

「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるためにあがないがなされ、あなたがたは主のために、もろもろの罪が清められるからである。これはあなたがたの永久に守るべき定めであって、イスラエルの人々のもろもろの罪のために、年に一度あがないをするものである」レイビ記16：30、34

我々は清められるべき神の宮

故に最後のあがないは、神の民のうちに、そして神の民のためになされる働きである。モー

セの時代に造られた宮は、人間（魂）の宮を象徴していた。イエスが地上を歩まれたころの聖所は、人の魂の宮を意味していた。今日も同じ意味を持つ。したがって我々は、魂の宮を清める大いなる時代に生存しているのです。

キリストも宮であられた。壊されて後、3日目に再び建てなおされると言われたのは、ご自身の宮のごことであった。イエスと宮は、聖霊の内住で満たされていた。彼は我々の模範である。我々は最終時代の裁きにおいて清められ、イエスが父のみ像を反映されたように、イエスのみ像を最大限に反映するようになるのである。

神のお住みになる所

「また、彼らに私のために聖所を造らせなさい。わたしが彼らの内に住むためである」出エジプト25:8

聖所は神が救いのご計画を我々に示されるための手段である。それは神がどのように人のうちにお住みになりたいか、また人がどのように神のうちに住むことを神が望んでおられるかを、我々に示している。キリストが我々のうちに住まれ、我々がキリストの内に住むのである。我々が信仰によって聖所に入ることを神は望まれる。幕屋の門から入り、恵みの座まで進むのではないか。

キリストの内に――キリストの聖所の内に

外から聖所をながめ、そこに並べおかれている動物の皮を見る。そこには我々の心を引きつけるものは何もない。キリストには我々の慕うべき美しさがなかった。ただ開かれた幕から中を見るとき、そこで我々の心に訴える何かを見る。キリストの美しさとは、愛の心、輝かしい品性など内側の美しさである。外側から内側をのぞいても、初めはそれほど見る事はできない。我々はキリストの語られるのを聞き、中に入って彼に自分自身をささげるときにキリストの美しさを見ることができる。こうして我々がキリスト（門）の内に入るとき、恵みから恵みへと、ますますキリストを愛するよう成長するのである。次に門を通して進んで行くと燔祭の祭壇を見る。それは我々にキリストの死を思い起こさせる。次にキリストのバプテスマを思い起こさせる洗盤、そして第一の幕屋に入りパンを食べる。「わたしが命のパンである」とイエスは弟子たちに言われた。彼は、世の光であるとも言われている。彼の心の内には絶えず天父に対する愛の火が燃えていた。絶えず天父と祈りのうちに交わられた。イエスが死なれたとき、宮の幕が上から下まで、真っ二つに裂けてしまった。これは神の子の肉を象徴する。神の愛するみ子の肉が裂かれたことによって、我々がみ父のもとに来て、罪の許しを受けることが可能となったのである。至聖所の中には、十戒が保管されている恵みのみ座を見ることができる。キリストの魂の宮の内側では律法が心に刻まれていた。天父は契約の箱の上に座られて、み子の内に律法を印される働きをなされた。み父に守られていたので、誰もキリストに勝利することができなかつた。あらゆる点において、聖所はキリストを象徴していた。ホワイト夫人は次のように述べている。

「ユダヤ人は、神から離れるにしたがって、儀式的な行事に教えられている意味を大部分見失った。その儀式はキリストご自身によって制定されたものであった。儀式のどの部分もキリストを象徴していて、生命力と霊的な美しさに満ちていた」希上17

聖所はキリストの象徴である。それはキリストの天や地上における働きを表わすばかりでな

く、彼の肉の性質をも表わしている。キリストは我々の模範である。彼は我々のうちに神が何を期待されるかを示すためにこられた。彼はみ父のお住みになる聖所となられ、我々もそのようになるのである。我々はその模範をまねるのである。

キリスト我らの内に—聖所の内に

キリストに聖所の中に入らせていただく。今度は人の魂の宮にである。まず、門から入っていただく。「見よ、わたしは門の外に立ってたたいている」黙3：20とイエスは言われた。我々は門を開けて、キリストに入らせて頂くのである。次に、我々がキリストとともに十字架につけられている祭壇に来て頂く。洗盤において、我々はキリストのバプテスマを受ける。十字架は自己に死ぬことであり、バプテスマは許しと神性を象徴している。それからキリストは聖所の中に入られて、そこで生命のパンとしてお住みになる。我々はみ言葉を学ぶことによって、キリストを自分の内に取り入れる。聖霊が我々の内に入り、我々を世の光として下さるのである。絶えまない神との交わりによって、我々の祈りは天に上る。これが香の祭壇の意義である。日毎にパンを食べ、光を受け、神と交わることが、日毎の奉仕の意義である。

年毎の奉仕

年毎の奉仕は、一年に一度だけとり行われた。これは終末時代になされる特別な働きの型であった。この時、神は「特別な清めの働き」のために、特別な方法で人の内に入ろうと計画しておられる。型において、それは年に一度だけ行われ、実体においても終末時代に一度だけ起こる出来事なのである。神は人の内に完全に宿られたいと望んでおられる。イエスは魂の宮の奥殿に近付かれたいと望んでおられる。キリストの仲保によって我々は罪を告白し、ゆるしを受けなければならない。我々は至聖所におけるキリストを仰ぎ、我々のためにキリストがそこで何をしておられるかを明確に理解しなければならない。そうしてはじめて、後の雨が降るのである。後の雨がどういうことをしてくれるのかは、次号の「アンカー」でとりあげたいと思う。墮落前のアダムがそうであったように、我々も神のみ像を完全に反映するようになる。我々が神の性質にあずかるものとなる。神が「魂の至聖所」に宿られるようになるのである。

これが聖所の教えの意義である。それは、聖所としてのキリストと聖所としての人を我々に示してくれる。イエスは我々の偉大な模範であって、我々自身がイエスの宿られるところである。神のみ霊がキリストの内に宿ったように、人の内にも宿るのである。

肉体的、靈的性質が象徴されている。

聖所はキリストと罪人を象徴しているのであるから、どの部分が人の肉体的性質を表わし、どの部分が靈的性質を表わしているのか、我々は自問してみる必要がある。答えはたやすいはずである。まず、聖所の外側は動物の皮で造れていた。キリストには、我々の慕うべき美しさがなかった。したがって皮はキリストの肉体的性質の部分を象徴しているはずである。神のご臨在を表わすシカイナの輝いていた至聖所は、魂の宮の至聖所と結論づけることができる。したがって、外壁と外庭は、キリストと人の肉体的性質を象徴しているはずである。聖所と至聖所は、靈的性質を構成するのである。ホワイト夫人は次のように述べている。

「多くの者が真理を外庭に留めている。真理の清い原則が、言葉や思い、行動を支配する感化力となっていない」 レビュー アンド ヘラルド 1901年10月1日

「真理がこぞって外庭に留められてしまっている。真理を魂の宮の内側に入れて、心の座につかせ、生活を支配させるようにしなさい」(5 T 5 4 7, キ実 3 9 5 - 6 参照)

荒野の聖所の中でシカイナの臨在のうちに神がお住みになったことは、このことを教えているのである。これが今日イエスの宿られたいと望んでおられる所である。そこには聖所、至聖所と呼ばれる二つの部屋があった。

なぜ、二つの部屋？

幕屋の内側（聖所と至聖所）が人間の心（精神または霊的性質）を象徴するとすれば、その二つの部屋は人の性質、もしくは経験の二つの側面を、何らかの方法で表わしているはずである。これら二つの部屋は何を意味するのか。結局それらは日毎の奉仕と年毎の奉仕のことを象徴していることは分かっているが、それが信者の経験とどのような関りがあるのだろうか。日毎の経験ですべての知っている罪を取り除くということについては、次号の「アンカー」でもっと詳しく説明することにする。その時に、先の雨と後の雨について考えてみたいとおもう。

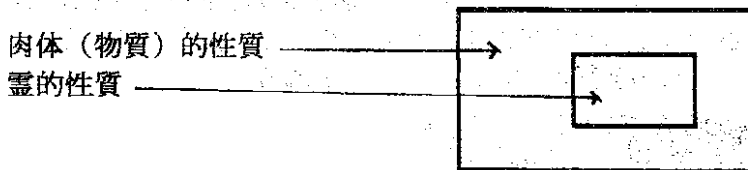
聖所

第一の幕屋、または聖所は人の心の中で罪を意識している段階に相当する、とここでは述べておきたい。これらの罪は日毎の経験において告白され取り除かれる。

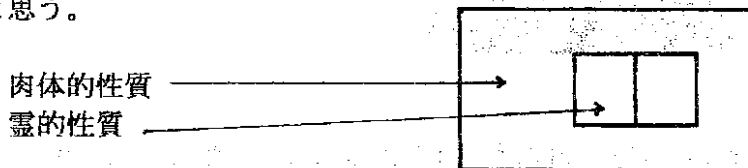
至聖所

至聖所は人の心の奥底、すなわちまだ意識上に浮かびあがって来たこともない、知られていない罪を表わしている。裁きにおいて、神がはじめられ、第一の幕屋の経験では終えられない働きを終えられるのである。人が神のみ像に回復されるのである。それについても次号の「アンカー」で詳しく取り上げたい。

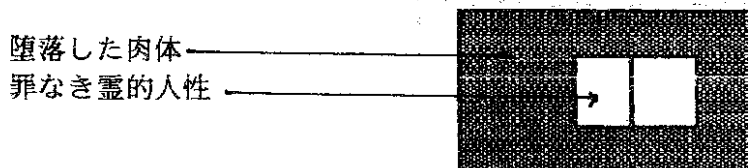
前号の「アンカー」では、キリストと人の性質を次のような図で表わした。



我々は聖所であると言われているのであるから、このイラストを聖所と重ね合わせてみたいと思う。

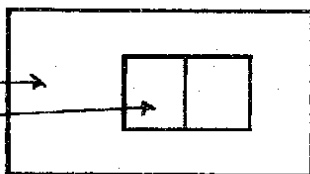


キリストはその霊的性質において罪なきお方であられたが、肉体的性質は退化し、墮落したものであった。キリストの魂の宮を次のように描いてみたいと思う。



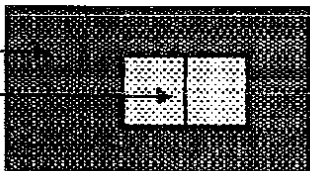
キリストは復活において変えられ、栄化された肉体をお受けになった。それは次のように表わすことができる。

栄化された肉体
罪なき靈的人性

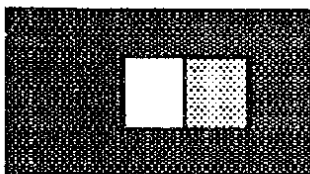


一方、人は退化した朽ちる肉体を有しているだけでなく、罪深い靈的性質を有している。改心以前の人の状態は次のように表わすことができる。

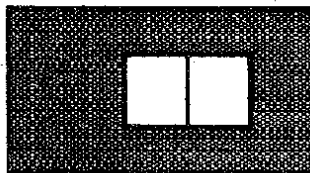
墮落した朽ちる肉体
罪深い靈的性質



人が生涯をキリストにささげて神の性質にあずかりはじめて後、その人の生涯を変えられ、すべての罪は許されるのである。キリストがその人の内にお住みになり、人がキリストの内に住むようになる。彼はクリスチャン品性完成への道を歩みだしたのである。彼は先の雨を受け、後の雨を待ち望んでいる。その状態は次のように表わされる。



144、000は、イエスのみ像を完全に反映する民である。彼らは小羊の行くところへはどこへでもついていく。彼らはイエスにあって完成されており、神の性質に十分にあずかるものである。彼らは復活以前のキリストのような状態で地上を歩むものとなる。キリストが最初の実であり、神の民は収穫物である。彼らの状態は次のように表わされる。



再臨の時に生ける聖徒たちは変えられ、栄化された肉体が与えられる。「わたしたちの卑しいからだをご自身の栄光の体と同じかたちに変えてくださるであろう」ピリピ3：21 彼らは、墓からよみがえられた後のキリストのようになるのである。その状態は次のように表わされる。



人とキリストとの間の類似点と相違点に注目していただきたい。神の聖徒たちはキリストの

ように勝利をおさめるであろう。裁きにおいて、彼らは神の性質にあずかるものとなる。それはまったく神からの賜物であり、キリストに内住していたのと同じ霊である。キリストが有しておられたすべての利点を、彼らは受けるようになる。彼らは神と完全に結ばれるようになるので、キリストのように勝利するのである。

人がどのようにして、墮落以前のアダムの状態に回復されるかに注目していただきたい。墮落以前のアダムの状態は、復活後のキリストと天に移される聖徒達の状態と同じである。最後にあげるいくつかの図は、すべてをより明瞭に表わしてくれる。

聖所で表わされる

キリスト

と

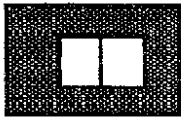
人間

罪がない
罪深い



墮落した罪深い肉体

墮落した肉体をとられたキリスト



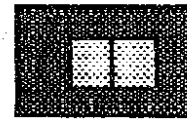
復活されたキリスト



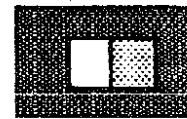
罪のないアダム



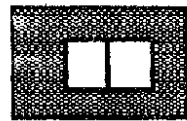
墮落した罪人



先の雨を受けた人



後の雨によって印された144、000



再臨の時に栄化された人



★ 「mind」(心、精神、意志)という言葉は、様々な筆者たちによっていろいろ違った意味をもって用いられてきた。ある場合は靈的性質を意味したり、ある場合には脳の働きを意味している。「nature」(自然、性質)という言葉もそうであるが、これらの言葉が系統だった言葉で用いられていない場合には、筆者がどちらを意図しているかを探求しなければならない。

(砂川満訳)

ビリー・グラハム、法王とバチカンで会談 しかも3日間も！

RNS (Religious News Service) 報告によると、伝道者ビリー・グラハム (左) は法王ヨハネ・パウロⅡ (右)、並びにバチカン官吏らと、1月10日から13日にわたって、全世界のカトリックとエバンジェリカル (保守的キリスト教派) の関係について話し合うために会談を持った。会談を報告したグラハム氏の助手は次のように語った：「バチカンでは、ラテン・アメリカで、多くの名目的カトリックがプロテスタントに移りつつあることについて明らかに憂慮している」と。

アドベント・レビュー1990、2-22



解説：これは、プロテスタント-カトリック、サミットとでも言えるものである。どんな国家の元首といえども1時間法王に会見できたらこの上ない名誉と思われる。それが3時間どころか3日間にわたる会談とは驚き！「高度な秘密」を鉄則とするバチカン内でどんなことが起こっているか知るよしもないが聖書の預言の研究者は大争闘下の第35章に書いてある事がまさに成就していることを見るであろう。

「自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるために、教会は、ひそかに、そして怪しまれないように、勢力を伸ばしつつある」大下341

まさにその時が来ようとしているのである。法王教は「時機を待つて」いたのである。そのような時が来る事を読んでいたのである。(大下339) ビリー・グラハムは世紀の大伝道者として活躍してきたが、今まで、共産主義を容赦なく「獣」として非難したとは言え、一言もローマ・カトリックに対してプロテストしてこなかったことはあまりにも不思議であった。「プロテスタント諸教会は世の関心を求めたために、誤った愛がその目を見えなくした」のである。大下329。彼は証の書は全部持っているし、読んでいるし、再臨の切迫を熱烈に説くし、彼こそ残りの教会のためにバプテスマのヨハネの如く人々を備えさせる人だと思っている人も少なからずいた。かつて三育のカレッジにいたある神学生たちはそう聞かされた。

「あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか」とイエスは言われた。マタイ16：3 我々は天災事変、政治、経済界に起こること、道徳の退廃、その他世の終わりに起こると預言されてきたことから140年以上も世の終末の切迫を説いてきた。だから、預言の声ラジオ放送もラッパの音も明らかに「聞けシオンの山高く」と始まった。サインズも「時兆」として世に訴えるユニークな記事であふれていた。

我々は目を覚まして地上歴史最後の、キリスト教史最後のキリストの兵卒として戦いの準備をしなければならないのではないだろうか？ 「もしラッパがはつきりした音をださないなら、だれが戦闘の準備をするだろうか」1コリン ト14：8

法王、歴史的教会会議を召集・ヨーロッパ統一可能!

法王ヨハネ・パウロⅡは、ヨーロッパにおけるカトリックの全司教の教会会議を召集すると発表した。東欧、西欧から高位聖職者を一堂に集めることは、歴史上初めてのことであり、とRNSは伝えている。

「統一ヨーロッパはもはや夢ではない。我々が目撃している諸事件は、この目標は到達できることを示している」 アドベント・レビュー1990、2-22

角解説：「すべての道はローマに通ず」と言われている。ローマ・カトリックは、ローマの続きであることを覚えていよう。ダニエル書を見ると4つの獣が世界帝国として登場してくる。バビロン、ペルシャ、ギリシャ、そして第4の獣はローマである。それは10の角を持っていた。ローマから分裂した国々（狭義ではヨーロッパ、広義では分裂した世界を表わすとも言われる）である。ヨーロッパはローマから分かれた国々である。黙示録では10の角と7つの頭がある。その頭の一つが致命的な傷を受ける。（黙13：3）。しかし、それは獣が傷を受けた事を表わしている。（13：12、14）。サタン的な権力、反神勢力としてのローマ・カトリックが1798年に致命的な傷を受けたが、しかし、それはなおってしまう。以前としてダニエル書で言うローマである。ローマとローマ・カトリックをダニエル8章では区別していない。続きとして扱っている。1匹の雄やぎの角が4つの角に分かれることは、ギリシャのアレキサンダーの死後4人の将軍に分かれる事を意味する。その角の1つからローマが起こる。注意して頂きたい。8：9の「小さい角」はローマとローマ・カトリックを一つとして扱っている。異教ローマは476ADに滅びたが、ローマ・カトリックとして今だに続いているのである。そのローマ法王教が、ローマから分裂したヨーロッパを、1260年間も支配していたのである。政治的、経済的、宗教的に。

さて、そのローマ・カトリックが今や再びヨーロッパ統合によって、失っていた支配権を取り戻す時が来たのだ。彼らは勿論、世界に向かってそんなことは言わない。「高度な秘密」を守るのである。

「しかし、法王制に忠順の意を表わすのは米国だけではない。かつてローマ教会の支配を承認した国々におけるローマ教会の影響力は、なお破壊されずに強く残っている。そして預言にはその権力の回復が予告されている。『その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで全地の人々は驚きおそれて、その獣に従った』（黙13：3）。死ぬほどの傷を受けたとは、1798年の法王権の失墜をさしている。．．．旧大陸においても新大陸においても、ローマ教会の権威だけに基づいている日曜日制度をあがめることによって、人々は法王制に忠順の意を表明するのである。．．．今日起こっている数々の出来事の中に、その預言の成就に向かった急速な進展が見られる」

大下338

ヨーロッパ統合はローマ・カトリックのねらいなのである。それに向かつて彼らは根回しをしてきたのである。「ローマ教会の抜け目なさや狡猾さには驚くべきものがある。この教会は、何が起こるかを読み取ることが出来る」大下339

サタンは病気を生じさせ、それを取り除いていやしをなす人類の恩人のように見せかける。大下351-352。災いをもたらし、恩恵と繁栄を与える。戦争を起こさせ、平和の使者のように見せかける。分断し、統一、統合推進者として見られるようにする。危機をつくり、危機を解決する者としてあがめられる。

「サタンが神の民との最後の大争闘に用いる手段は、天において大争闘を開始した時に用いたものと同じである。彼は神の統治の安定を推進しようとしているのだと公言しながら、一方においてはこれ転覆するためにひそかにあらゆる努力を傾けた。そして自分が達成しようとするように努力している働きを、忠実な天使たちのせいにした。同じような欺瞞の手段が、ローマ教会の歴史の特徴であった」大下356

今日の世界の諸事件の特徴は、統一、統合、同盟で表わされる。サタンは世界を東と西、米ソに分けた、ドイツを分断した。朝鮮を分断した。中国と台湾を切り離した。そして今や時が熟して、世界統一に向かって国々は急激に動きだしたのである。いや走りだしたのだ。しかも、6千年の地上歴史の終わりの10年目にあたってである。まるでそれは、去ったオリンピックで世界女子マラソン選手権大会の時に起こったことを想起させる。小柄な日本選手が小さな足をまるで機械のように動かしてトップを切って世界の注目を浴びていた。ところがオリンピック会場に入るや否や、アメリカの選手が驚くべきスタミナを発揮したのだ。たちまち追いぬかれてしまった。もう地上歴史の最後の10年間である。ローマは自分の時が来たことを現わし始めたのである。政治的、経済的、宗教的戦略のすべてが絞られて、世界統一に結集される。ソ連、東欧諸国の民主化の激変は、共産主義、社会主義の負け、民主主義の勝利というものでなく、ローマの勝利であることはアンカー先号で紹介した。蓮実氏は「『東欧』諸国の『民主化』がその債務国家の同義語にほかならぬ以上、カトリック的な権威拡大に好都合な貧窮層が多数生み落とされることは目に見えている」と言い、民主化の「真の勝利はローマ法王」と言い切った。ステファン・カンファー氏もライフ誌に同じことを書いた。

ダニエル書11章の預言はギリシャから始まっている。シリヤ-セレウカス王朝とエジプト-トレミー王朝が戦い続けている間に、静かに勢力をつけていたのが西のローマであった。時満つるに及んでローマが覇権を握ったのであった。歴史は繰り返している。世界の覇権を握るのはローマ・カトリックである。

1. 第3諸国はカトリック化した。(南米、中米、フィリピン等)
2. アメリカもほとんどカトリック化しつつある。1984. 1-10「婚約」
3. 日米運命共同体はレーガンと中曽根の時にできた。だから、日本は「アメリッポン」「グローバル パートナー」「アメリカの道連れ」と呼ばれるようになった。
4. ソ連(無神論、共産主義)もついに屈伏した。1989. 12-1バチカンとの和解

ポール・ブランシャードは「バチカンの絶対説と言う教義とクレムリンのそれとの間には非常な類似点がある。故に相互の関心を基本として究極的な共同(合作)の可能性は避けられない」としてレイノールド・ニーバーやカール・バルト(キリスト教トップ神学者)らの言葉を引用している。シドニー・フーク教授は「ヨーロッパとアメリカのカトリックの代表的な弁証者の書物によって判断するとすれば、彼らはかつてアリストテレスを改

宗させたように必要が起きたらマルクスを改宗させる用意がある」アメリカの自由とカトリックの勢力 293

黙示録 17 章では赤い獣と淫婦が世界を支配すると描写されている。タニエル 17 章では北の王と南の王（法王教と無神論権力）と表現している。

共産主義諸国、東欧もカトリック化されている。「民主化を進めているバルト三国はカトリック教会の拠点だ」「教会は東西欧州を結ぶ『共通分母』だ」宇野正美
ゴルバチョフは「欧州に一軒の家を建てようとして、その礎としてキリスト教」と言っているが、それはローマ・カトリックのことである。（記事を見よ）
ヨーロッパ統合のボンドである。

5. 1992. 12-30 ヨーロッパ共同体

その欧州統合に、互いに敵対していたバチカンとソ連（無神論勢力）が手を取り合うのである。ヨハネ・ポーロ II も、ゴルバチョフもヨーロッパ共同体の建設に勢力的である。そればかりでなく、アジアの民主化、統一にも力を注ぐのである。ドイツ統一は実現した。今度は北朝鮮と韓国の統一だ。そして天安門事件で失敗したと思われる中国の民主化はもう時の問題である。



6. 次のステップは世界共同体である。

あと残されている問題は、イスラムパワーである。世界政府樹立の道に立ちまはっているのは、かつてローマを罰する鞭として使われたイスラムパワーである。そのために現在イラクの危機が作りだされたのではないか、陰謀ではないかと思えてならない。またもや、この危機解決のために、バチカンが乗り出してくるのではないかとの推測の可能性がないとは言えない。ポーランドの危機解決にも法王の介入があった。リトアニア問題にもバチカンが乗り出した。

最も有名な歴史家、トインビーは、21世紀は宗教の世紀だと言った。

ヨーロッパ統合について黙示録 17:12、13に「彼らは(10の角)心を一つにしている。そして自分たちの力と権威とを獣に与える」とある。ヨーロッパ共同体ができれば中世を支配していた、政治、宗教権力を持つローマ・カトリックが覇権を握る。

それは世界共同体ができる時にもそうなる。それが聖書の預言である。（黙示録 13:3、4）（宗教パワーと世界政治、室生忠著も興味深い）

この教会は(1)再び世界を支配するために、(2)また迫害を復活させるために、(3)またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために働いている。準備はいかに？

キリスト教

「欧州の家」に東西が集う礎として

編集 北島清泰

ソ連のゴルバチョフ議長は欧州に「欧州の家」を建てようとして、いま青写真づくりに熱中している。彼の著作から、その設計図を読みとると……

「欧州各国の国民が一軒の家の、しかし異なった部屋に住む。もちろん出入り口は別々だ。居住者は一致協力し、火事や、その他の災難から共通の家を守る。力を合わせれば快適で、安全で、秩序のある住み方ができる」

一軒の家に同居する際の心得

ゴルバチョフと西独のワイツゼッカー大統領が、この家の入居心得について話し合ったことがあった。その会話を議長自身が書き残した。

「欧州という共通の家で物事をどう取り決めるべきかを具体的に考えるうえで、これが参考になります。つまり、家の中の部屋を、互いどの程度自由に訪問しあえるか、という点」

「ゴおっしゃるとおりです。しかしこれらが夜間の訪問客を歓迎するとはかぎりませんよ。」

「それに共通の居間に深い軋轢が解られることも、歓迎できません。」

「軋轢、とは何か。議長自身の説明によれば、それは「ベルリンの真ん中を」

「ソ連に人間資格はない」という声もある。そんな偏見に対して、議長は、この反論するのだ。

「彼らとはさきより何げないふりをして『ヨーロッパ』と『西歐』とを同一視しようとする。しかし（略）我々は欧州人なのだ。誰のロシアはキリスト教によって欧州と結ばれていた」（同）

ゴルバチョフ議長の提議が、ここに一人いる。教皇ヨハネ・パウロ二世だ。去年のクリスマス、教皇は、こんなメッセージを世界に送った。

「欧州は、福音によって、奥深いところで文化、芸術、人間の尊厳が不可侵であるという考えを得ました」

「教皇は、かねがね「ウラル山脈から大西洋まで」と、自らの欧州観を説明してきた。ウラル山脈はソ連領だ。有神論の総本山、パチカンの主と無神論國家の元首が描く青写真は、ともに「古い」版図に似ている。」

去年十二月一日、パチカンで教皇とゴルバチョフ議長が会談した。議長夫妻は、教皇に向かつて、

「私たちは世界を世界の最高指導者と話しあっていることを自覚しています。その人は、スラフ人です」といった。教皇もまた、議長に、

「パチカンは、あなたが始められたペレストロイカを見守っています」と、答えた。宗教と共産主義が、スターリン時代以降、不但敵の敵同士だ。だがこれが嘘のようだった。

宗教改革以来のイベント

共産政権による宗教弾圧は残酷をきわめた。特に東欧のカトリック信者は激怒された。

カトリック信者が国民の九割を上回るポーランドでは、ワルシャワのビシンスキ大司教が逮捕された。ルーマニアでは、教会財産が国有化された。チ

ェコでは政府の地方長官が聖職者の任命権を奪取した。

ハンガリーでは、ミンゼンテール



ゴルバチョフ議長と和解したヨハネ・パウロ二世

枢機卿が終身刑の宣告を受けた。そしてまた、各国で数知れない司祭や修道女が、反逆罪とかスパイ活動とかの罪名を負って投獄されたものである。

一方、精神世界の超大国、パチカンも、共産党員やシンパは破門すると宣言し、対抗した。パチカンは、かくて「反共総本山」と呼ばれた。

憤怒から謙笑へ。この大転換は、しかし、唐突にもたらされたものではな

い。先の先を讀んだ布石、丹念な根回しが、有神、無神両国の手で長い間、進められていた。

教皇、議長会談の一月余り前、フランスのストラスブール市郊外で、パチカン、ソ連両者の対話集会が開かれた。テーマは、すばり「欧州の共通の家の建設における文明の役割」。

共通の家を築くため、「欧州の精神的エネルギーを、もっと活用しよう」両者は、そう確認しあった。

去年五月には、スイスのバーゼル市で、「正義、平和と環境に関する全欧州キリスト教徒会議」が開かれた。参加したのは、プロテスタント諸教会、カトリック司教団、英国聖公会、正教諸教会、環境運動など諸団体の代表ら東西欧州二十五カ国の計約八百人。

カトリックとプロテスタントが分裂した十六世紀の宗教改革以来、こんな大イベントはなかった。ここにも「共通の家」の土台にキリスト教を据えよう、という意図がある。

さらにさかのほれば、七五年に「欧州安全保障・協力会議」いわゆる「ヘルシンキ会議」が開催された。東西ヨーロッパ、米、カナダ、計三十五カ国首脳の名前に、パチカン國の代表も参加していた。

一人権および思想、良心、宗教、信託の自由を含む基本的自由の尊重」など、この会議で決められた十原則が、その後、どれだけソ連・東欧の反体制運動を勇気づけたことか。

「一家意識が、「ウラル山脈から大西洋まで」の人々に、ついでこの間の確執を忘れさせ、遠い昔には東西欧州が一つのキリスト教國であったことを思い出させている。この忘却と想起は、九二年のEC統合と無縁ではない。」

そして、その九二年とは、ヨーロッパ人によって新大陸が発見されてから、ちょうど五百年目の年でもある。

新大陸発見五百年を前にして、欧州は、その地の埋蔵文化財、キリスト教を再発見する。（一九九九年九月、きよまさ）

エノク No.83 宇野正美著

ヨーロッパの共通分母

東西欧州の共通分母

国際人となるための第二の鍵は、この世界をリードしている国々や諸民族が日本人とは全く異なる発想を持っているということを知ることである。

日本人の発想は主に中国からきており、それは仏教的であったり儒教的であったりする。それゆえに韓国やタイ等のアジア諸国も、波乱万丈に富んだ歴史を辿ってはいてもやはり中国的な発想という面では一致することができるものだ。

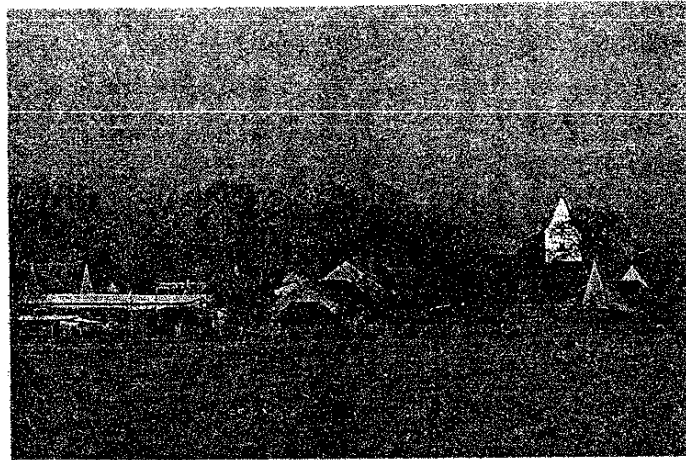
しかしアジアや極東において通用する発想が、今世界をリードしている欧米人たちにも通用するとは限らない。中東の国々においてももちろんそうである。彼らにとって中国ははつきり言って不可解な国であり、その発想を理解することは困難である。

では欧米人たちの発想とはどのようなものなのか。
一九八九年十二月一日、マルタ沖での米ソ首脳会談の前夜、ゴルバチョフ・ソ連最高会議議長がローマ法王ヨハネ・パウロ二世と会談した。

ソ連の最高指導者としてはゴルバチョフが初めてパチカンを訪問したことになる。そして「信仰の自由」を守る法律を早急に制定する約束をし、ソ連とローマ法王庁との外交関係を結ぶことに合意したと報じられた。

かねてからソ連に代表される東側の為政者たちは「宗教はアヘンである」と言い、パチカンは「共産主義は本質的に悪である」と言い合ってお互いに敵視した時代が長く続いた。東側世界との対立を和らげようとする法王の「東方政策」と、国内の民主化を進めながら西側との和解に努めるソ連「新思考」路線が、このときドッキングしたわけである。

この事実を受けて『読売新聞』はその社説欄で「ソ連がパチカンとの関係を正常化した。同時に信仰の自由を保証すれば東西世界が共通の価値観に近づくことになる」と論評した。この「東西世界が共通の価値観」という言葉が大切なのである。なぜなら一九八九年十



東ドイツの村の教会

二月三日付の『読売新聞』はその解説の中で次のように述べている。

「いままでもなくソ連にはウクライナ共和国を中心に千二百万の信徒がいる。ゴルバチョフ現政権の改革運動が動きはじめてから政治、文化、経済の各分野で自立傾向を明確にし、『民主化』を進めているバルト三国はカトリック教会の拠点だ。

東欧のポーランドは人口の九割がカトリック教徒で、第二次大戦後の共産化以来、信教の自由と社会制度の改革を求めてきた主力は教会だ。今年初め、非共産勢力として政権をとった『連帯』は反体制抵抗のよりどころを教会に求めてきた。

東欧・社会主義の優等生といわれながら、『政治』改革の大波に洗われた東ドイツの世直し運動で、口火を切ったのは教会（プロテスタント）だった。チェコスロバキアの反体制運動で「後方」陣地となってきたのもカトリック教会だ。ハンガリーもその例外ではない。

教会は東西欧州を結ぶ「共通分母」だ。……一方、西欧はすべて「キリスト教」国であり、その歴史と文化と伝統に生きている。文化・思想の価値観はキリスト教に基礎を置き、西欧は教会を中心とした生活習慣から脱し得ない」

以上でわかるように東西欧州の価値観はキリスト教に基礎を置くものであり、その思考方法は日本人のそれとは根本的に異なる。もちろんアメリカもそうである。

ビリー・グラハムと法王教

ジャック・T・チック (SDAではない)

バチカンはいつも25年、50年、100年も前もって、ずっと将来を見て計画する。世界第二次大戦の後、バチカンは友となり得るアメリカのチャンピオンを選んで支援しなければならなかった。その人は、みんなから愛され、偶像視されるような人でなければならなかった。その人は断じてマルチン・ルターのごとき者であってはならなかった。このチャンピオンはアメリカ人を魅了し、アメリカ国民の心を捕らえる者、そしてバチカンに支持される大物でなければならなかった。彼はすべてのエバンジェリカル(保守的、福音的キリスト教派)を法王の腕に引き寄せる笛吹きとして使われるのであった。

バチカンは雄弁で、スタジオを満員にする事のできるカリスマ的(大衆を魅了する、非凡な指導者)な人を欲っていた。福音使命を説きながら、やわらかく、決してバチカンを攻撃しない人が欲しかったのである。そのような人を見つけたウィリアム・R・ハーストは、善良なローマ・カトリックの出版業者であったが、彼の新聞を使って、ビリー・グラハムを有名人に持ち上げたのであった。

30年もの間、ビリー・グラハムは大衆に語り、大いに愛され、尊敬され、模倣された。彼が説教するときには人々は彼に誉れを帰し、称えた。しかし、イエス・キリストが説教したときには、人々は彼を殺したのであった。

我々は次の聖句をよく知っている。「だれでも世を友とするものは神の敵である」新聞はビリー・グラハムをくさすようなことはしない。雑誌は彼を世界で最も愛すべき人物の一人だと評する。しかし、私はずっと頭をかしげてきた。私はビリーを愛しているし彼のために祈り、彼を支えてきた。しかし、何かおかしいと感ずるようになった。

オークランドのフロイド司教、
ビリー・グラハムと語りあう

ビリー・グラハムの働きを
称賛するイエズス会士の本
について語りあう



ベルモント アービー カレッジ

ベルモント、ノース カロライナ

3-19、1965

ジュリアス C・テラー様：

100 Cardinal Drive

Taylor, South Carolina

テラー様：

あなたのジョン・オートゲン神父に宛てられたお手紙の返事は私がするようにまわされてきました。ジョン神父はもう院長ではなく、北カロライナ大学で、文学の博士論文のために研究しておられます。

ビリー・グラハム氏をよく知り、彼を招待し、神父、修道女、学生たちのために話しを頼んだのは私でありますので、あなたの質問に喜んで私がお答えいたします。

ビリー・グラハムは、フルトン J. シェーン司教やまたは他のカトリックの説教家のするような霊的な、神学的に正しい説教をしました。私はずっとビリー・グラハムの生涯を見守ってきました。私は彼は他の誰よりもカトリック的であることを強調しなければなりません。私がこの事を言うのは党派的な問題としてでなく、事実として言っているのです。

プロテスタントの間におけるビリー・グラハムの強力な影響力を知っています。そして今やカトリックも彼しかできない説教を、熱烈に、誠実にアピールしていることを認めています。彼は健全なエキュメニカル（教会一致運動）精神で、カトリックとプロテスタントを一つにする事が出来るであろうと私は言明します。

私はビリー・グラハムを招待した最初の者です。来月は、他の3つの大学で彼は話すことを知っています。彼は将来は、プロテスタントの大学よりももっと多くのカトリックの大学に招待されると信じています。

ですから、私は喜んであなたの質問にお答えします。ビリー・グラハムはカトリックに喜んで受け入れられる道徳的、伝道的な神学を説教しているのです。

真心こめて、

クッシベルト E. アーレン O. S. B

副院長

Belmont Abbey College
Belmont, North Carolina

March 19, 1965

Mr. Julius C. Taylor
100 Cardinal Drive
Taylors, South Carolina

Dear Mr. Taylor:

Your very nice letter addressed to the Rev. John Ostgen has been handed to me for reply. Father John is no longer president and is at the University of North Carolina working on his dissertation for the doctorate in Literature.

I am the one who, being acquainted with Billy Graham, invited him to speak to the Fathers, the Nuns, students and invited guests, and I am pleased to reply to your inquiries.

Billy Graham gave an inspiring and a theologically sound address that may have been given by Bishop Fulton J. Sheen or any other Catholic preacher. I have followed Billy Graham's career and I must emphasize that he has been more Catholic than otherwise, and I say this not in a partisan manner but as a matter of fact.

Knowing the tremendous influence of Billy Graham among Protestants and now the realization and acknowledgment among Catholics of his devout and sincere appeal to the teachings of Christ which he alone preaches, I would state that he could bring Catholics and Protestants together in a healthy ecumenic spirit.

I was the first Catholic to invite Billy Graham; I know he will speak at three other Catholic universities next month; I believe he will be invited by more Catholic colleges in the future than Protestant colleges.

So I am well pleased, then, to answer your question: Billy Graham is preaching a moral and evangelical theology most acceptable to Catholics.

With cordial regards, I remain

Very sincerely yours,

Cuthbert E. Allen, OSB

(The Rev.) Cuthbert E. Allen, O.S.B.
Executive Vice-President

CEA:mc

55

BILLY GRAHAM AND THE CHURCH OF ROME



BILLY GRAHAM AND THE CHURCH OF ROME

Billy Graham at Roman Catholic Belmont College receiving the yoke from ROME. Graham was granted an honorary doctor's degree from this Roman Catholic College. Graham told his audience that the "GOSPEL THAT FOUNDED THIS COLLEGE IS THE SAME GOSPEL WHICH I PREACH TODAY."

ローマ・カトリック ベルモント大学でローマからのヨークを受けるビリー・グラハム。彼はここで、名誉博士号を授けられた。彼は聴衆に言った。「この大学の礎となっている福音は今日私が説いているのと同じ福音である」と。

アニッタ・ブライヤントが、ホモセックス（同性愛）に反対して、ビリーの支援を頼んだときに、彼は拒絶した。彼はわれ関せずの態度であった。アニッタ・ブライヤントは、彼女がとった立場の故に怒りをぶちまけられ、迫害された。しかし、ビリーはそうではなかった。彼はその立った立場の故に世から愛された。

ビリー・グラハムが伝道を始めた時にはファンダメンタリスト（正統派）であった。しかし、時が経つにつれ彼は立場を変えた。カトリック・ヘラルド、1966、6-3に、ビリー・グラハムは米国のイエズス会士の友人であると引用されている。また、ビリー・グラハム博士は、1967年にローマ・カトリック大学、ベルモント・アービー大学からHUMAN LETTERS（人間学？）の名誉博士号を授与された。その授与式の意義についてビリー・グラハム博士は次のように言った。「今やカトリックとプロテスタントが互いに会い、兄弟として挨拶できる時である。それは10年前は出来なかったことであった」と。

1972年、ビリー・グラハムは真のエキュメニズム（教会一致運動）のために、フランシスコ修道会から、ミネアポリスにおいて、国際フランシスコ会賞を受けた。アッシシのフランシスコについてビリー・グラハムが言ったことを引用する前に、聖フランシスコについて私に説明させてほしい。彼は行ないによって救われる、貧しいもの達を助けることによって救われると信じていた。そうすることによって自分の魂を救っていると信じた。聖フランシスコはローマ・カトリックによっては聖人にされた。彼の行ないによる救いという教えの強力な立場の故に。これは聖書の教えではない。聖フランシスコは動物を祝福し、バプテスマを授けて、クリスチャンの名前を与えたことを知っておられるだろうか？

こんな人に関してビリー・グラハムが何と言っているだろうか？「わたしは聖フランシスコの靴のひもをどくに値しないものであるが、13世紀にフランシスコを召されたキリストは20世紀にわたしを彼の僕の一人として召された」

ビリー・グラハムは、ヨハネ・パウロⅡが米国を訪問した、1979年、10月11日のフィル・ドナウのショーで次のように言った。「わたしは、アメリカ人はリーダー、信念のある道徳的、霊的リーダーを求めていると思う。法王はそれを持っている。彼はどの主題に関しても遠慮なくはっきり言った。実際のところ、ボストンでの彼の話はキリストに来たれ、キリストに生涯をささげよと人々に訴える実に伝道的なものであった。私は言った、『私は、今や権威ある引用できる人を見いだした』」* なんと悲劇！かつては聖書をその権威として使った人が、今や法王を崇拝して、仰いでいるとは。

初めのころは、ビリー・グラハムは大いに神に用いられた。しかし、彼はあまりにも大なる圧力にあきらめ、妥協したのである。今や彼は黙示録の淫婦と手と手を取り合って歩いているのである。

数年前に、メキシコから5人の牧師が私に会いに来た。助けを求めに来たのである。彼らが言うには、私に、ぜひビリー・グラハムに話してくれということである。私は小さい出版屋でしかないから、それは不可能であると言った。彼らの話しによると、ビリー・グラハムは自分達の教会をだ

めにしたと言うのだ。彼はクルセード（大伝道集会）を持って、皆自分の元の教会に返り、キリストに人々を導きなさいと言った。すると人々はビリー・グラハムの指示通りにして、みんなローマ・カトリック教会にもどったと言うのである。12年の働きが一夜にして崩されてしまったのであった。

* October 11, 1979 Transcript #10119

イエズス会士脱退者リベラ博士は、1950年に、ビリー・グラハムが話す時には、いつでも体育館をローマ・カトリックで満たすようにと、中央、南アメリカで言われた時から、パチカシに利用されていると知っていたことを私に話してくれた。幾百万の金が世界の大伝道者として、ビリー・グラハムを持ち上げるために使われた。

宗教ニュースサービスは1981年、1月13日に次のように報告した。「法王ヨハネ・パウロⅡは、世界で最も名高いプロテスタントの伝道者、ビリー・グラハム牧師と約2時間にわたる密談をした」

「ニューイングランドのクルセードの後、決心を表明した幾千の人々が今やカトリック教会に統合される過程にある。これらの人々を転籍するためにグラハム協会とカトリック聖職者の間に会談がなされてきた。その一つの会合は、マサチューセッツのウエストンの法王ヨハネ23世セミナーで、1982年6月9日の夜になされた。その時、2100人の求道者の名前が司祭や修道女達に渡された」



ローマはまずあなたが払わなければ何もあげることはいらない。彼の最後の支払いにはヨハネ・パウロⅡを世界の最大の道徳的リーダーとして紹介することだったのだろうか？彼はそれをしたのである。それをした時、淫婦に外套を着せたことに気がつかなかったのだろうか？ビリーの追従者たち、伝道者たち、彼のすべての言葉、支持を聞いたこの国の人々、すべての者は共産国ポーランド出身の法王、この地上のキリストの代理人と自称する法王に向って、その愛情を表明したのである。法王がいかに満悦のうちにローマに飛んだか想像できる。彼はビリーに良い投資をしていたこ

とを知っていた。

みなさん、これは負けゲームである。彼の働きはもう終わったのである。もはや必要とされない。私は彼をロシアに行くようにさせたのはバチカンだと思っている。キリストにある愛する者たちよ、導きを主と聖書に求めよ、神に祈れ、聖霊がすべての真理に我々を導くであろう。しかし、ビリーはロシアに旅行することについてバチカン官吏からアドバイスを求めたことを認めている。彼らは静かに行き、共産主義者のやっていることを非難しないようにと言った。福音のパンフレットを配って捕まった者たちは、ロシアの牢獄で5年から10年も監禁されて苦しみ、やせ衰えていたが、ビリーがバチカンの指示に従って、世界に向かってロシアには宗教自由があるとの発表をしたとき、彼らはそれを聞いて全くがっかりさせられたのである。私は、ビリー・グラハムを愛するゆえに言いたくないが、彼は黙示録の淫婦のために煙幕として、笛吹きとして巧みに利用されていると思うのである。

‘法王は ほとんど伝道者である’

この独占インタビューで、ビリー・グラハムは、ヨハネ・パウロⅡのポーランド巡礼をキリスト教の勝利と称えた。ビリー・グラハム博士と他の宗教指導者達も世界的な宗教のリバイバルの支援をする法王を絶賛した。

The STAR, June 26, 1979

‘THE POPE IS ALMOST AN EVANGELIST’



IN this exclusive interview, evangelist Billy Graham hails Pope John Paul II's pilgrimage to Poland as a triumph for Christianity. Other Christians and other religions.

大下350—「合衆国の新教徒は、率先して、心霊術と手を結ぶために淵を越えて手を差し伸べる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この結合による勢力下に、アメリカはローマの例に習って良心の権利を踏みにじるのである」



ローマが変わったのか、それともプロテスタントが変わったのか？

大下329—「カトリック教は以前ほどプロテスタントと広く隔たっていないという主張がプロテスタントの諸国において唱えられてきたことには、理由がないではない。そこには変化があったのである。しかしその変化は、法王制の中にあつたのでは

ない。なるほどカトリック教は、今日存在しているプロテスタントによく類似している。それはプロテスタントが、宗教改革者の時代以後、ひどく墮落してしまったからである」

同328—「現在ローマ教会は、その恐ろしい残虐行為を弁解しながら隠し、世界にもっともらしい顔を見せている。この教会はキリストのような衣を装っている。しかし教会は変わっていない」

預言の成就を目の当たり見て我々は何を知るか？

5 T 4 5 1—「プロテスタントが深い淵を越えて手を伸ばし、ローマの力と手を握り、深淵を越えて心靈術に手を伸ばし、この三重の結合の力によって、わが国が新教と民主主義的政府の憲法のすべての原則を破棄し、そして法王権の虚偽と欺瞞とを普及させる準備をするときに、我々は、サタンが驚くべき働きをする時が来たこと、そして終わりが近いことを知るであろう」

他の宗教を非難すべきではない・・・？

大下258—「この大欺瞞者が最も恐れていることは、我々が彼の策略を見破ることである」
大下260—「サタンの権力に抵抗しようとする何の努力もなく、教会と世の中に無関心の状態がみなぎっていけば、サタンは別に気にとめないのである」

大下318—「今日、ローマ・カトリックはプロテスタントから、過去の時代よりもはるかに好感をもってみられている。カトリック主義が優性ではなくて、カトリック教会が勢力を得るために融和的な態度をとっている国々においては、改革主義の教会を法王教から区別する教理に対して、ますます関心が薄らいできている。結局われわれは、主要な点では今まで考えられてきたほど広く隔たっていない、われわれの側のわずかな譲歩によってローマとのより良い理解がもたらされるであろう、という意見が有力になってきている。高い犠牲を払ってあがなった良心の自由に、プロテスタントが高い価値を置いた時代があった。彼らは子供たちに法王教をきらうように教え、ローマと一致しようとすることは神に対して不忠実であると主張した」

大下328—「だれも欺かれてはならない。今日プロテスタントが尊敬しようとしている法王制は、宗教改革の時代に世界を支配していたのと同じものである。その時神の民は、自分の生命の危険をおかして、この教会の悪を暴露するために立ち上がったのであった」

大下376—「第三天使の使命も、このようにして宣布される。それが非常な力で伝えられる時が来るならば、主は謙遜な器を通して働かれ、主の奉仕に献身した人々の心を導かれる。働き人は、学歴ではなくて、聖霊を注がれることによって資格を与えられる。信仰と祈りの人は、聖なる熱意に燃えて出て行き、神から与えられる言

葉を宣言せざるをえなくなる。バビロンの罪は暴露される。教会の法令を政権によって強制することの恐るべき結果、心靈術の侵入、法王権のひそかではあるが急速な発展などが、みな暴露される。これらの厳肅な警告によって、人々は動かされる。こうした言葉を聞いたことのない者が、幾千と耳を傾ける」

大下330—「祈りをもって聖書を研究するとき、プロテスタントは法王制の本性を知り、法王制を嫌悪しそれを避けるようになる」

大下341—「神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何であったかを知ったときには、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう」

敵をも愛するようにとキリストは教えているではないか？

バビロンの宗教、制度を嫌悪するが、カトリックの人を憎んではならない。ヨハネ・パウロⅡがネブカデネザルのように悔い改めて、天の神の前にへりくだることはあり得ない事ではない。

大下245—「キリストの弟子たちには、彼らの主にあらわされたのと同じ敵意が表わされる。罪のいとわしい性質を認めて、上からの力によって誘惑に抵抗するものはだれでも、必ずサタンとその部下たちの激怒を引き起こす」

大下246—「サタンは、彼の全軍を動員して、戦闘に全力を傾けている。彼が、大きな抵抗に会わないのは、なぜであろうか。キリストの兵卒たちが、このように眠りをむさぼり、冷淡なのは、なぜであろうか。それは彼らが、キリストとの真のつながりをほとんど持っていないからである。キリストの霊に欠けているからである。彼らの主にとって、罪はいまわしく嫌悪すべきものであったが、彼らにとってはそうではないのである。彼らは、それに対して、キリストのように決然と抵抗をしない。彼らは、罪のなほだしい邪悪さといまわしさを悟っていない。そして、暗黒の君の性質についても、盲目である。彼らには、サタンとその働きに対する敵意はない」

バビロンと言われるローマ・カトリックと諸教会に神の民がどれくらいいるだろうか？

大下92—「バビロンを構成する諸教会は、靈的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。この時代のための特別な使命をまだ悟っていない人々が多くいる。自分たちの現状に満足せず、もっと明らかな光を待ち望んでいる者が、少なくない。彼らは自分たちの所属する教会の中に、キリストの姿を見ようとしても見ることができない」

同 84—「黙示録18章では、神の民がまだバビロンにいななければならない。今、キリストに従うものの大部分は、どの宗教団体に属しているであろうか。言うまでもなく、プロテスタント各派の諸教会である」

同 190 - 「しかし、信仰と敬虔さが一般に衰微したとはいってもかれらの教会の中に、キリストの真の弟子たちがいるのである。地上に神の最後のさばきが下るに先立って、主の民の間に、使途時代以来かつてまだ見られなかったような初代の敬虔のリバイバルが起きる。神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる。その時、多くの者が、神と神の言葉の代わりにこの世を愛してきた諸教会から離れる。牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる」

しかし、嵐が迫って来るとき、現在のSDAから多くの者（大部分のもの）が信仰を捨てる。

大下378 - 「あらしが迫ってくる時、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を捨てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般受けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」

質問： サタンは賢いので、証の書に、「大争闘」に書いてあるシナリオどおりに終末事件は起こらないのではないか？

「わたしは有るという偉大な神が、み言葉の中にお与えになった預言は永遠の過去から永遠の未来に至るまでの諸事件を一つ一つつなぎ合わせて、われわれが今日、時代の推移の中のどこに位するかを告げ、また将来何が起こるかを示しているのである。預言が起こると予告したことはすべて、現在まで歴史のページをさかのぼることができるのであるから、これから起こることもすべて、その順序どおりに成就するものと確信してよいのである」国指下144

質問： これから起こる将来の事をはっきり知ることができるか？

「イエスの死はまるで主がなんの予告もしておられなかったように、彼らの望みを徹底的に打ち砕いたのであった。キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっているため、彼らは悩みの時に備えができていない」大下359、360

「宗教は変わってきたのか？」 5 T 2 2 2

1. 救いは我々の努力にかかっていない。

「もし救いが我々自身の努力にかかっているとすれば、我々は救われる事ができない」

患下 2 5 6

「カインの模範に従う礼拝者は、世界の大半をはるかに越している。... ほとんどすべて偽りの宗教は、人間自身の努力によって救いを得ることができるという同じ原則に基づいているからである」人あ 上 6 8

「律法を守って、自分の行ないによって天国に入ろうとするものは、不可能なことを試みているのである。人は服従なしでは救われる事はできないが、彼の行ない（業）は彼の業であってはならない。彼の内に働き、志し、キリストの喜ばれることをするように、キリストが働かれるべきである。人が自分の業によって救われるとするならば、自分自身の内に何か良いものがあると悦に入っていることになる。自分の力で救いを得ようとする努力はカインの供えものであらわされる。キリストなしに人ができるすべてのことは利己主義と罪で汚染されている。信仰を通してなされたことだけが神に受け入れられるのである」1 SM 3 6 4

人間の努力でできないことは：

「心を新たにすることができない」キ道 1 6 「救いは人間の努力によって得れるものではない」キ実 9 4 「自分の力では悪の勢力と戦うことができない」キ道 1 3 「悔い改めることができない」キ道 2 7 「神のおきてに従うことができない」キ道 5 3 キリストを離れては「誘惑を退ける力も、恵みと聖潔に成長する力もない」キ道 8 6 「なにか自分だけでしなねばならないことがあると考えている人がたくさんあります。彼らは、キリストに頼って罪のゆるしを得ていながら、正しい生活を自分の力で送ろうとします。しかしそうした努力はみな失敗に終わります」キ道 8 6

2. 我々の救われるのは、恵みにより、信仰によるのであるが、信ずるとはどういうことか？

「尊いのは愛によって働く信仰だけである」ガラテヤ 5 : 6

「イエスが病人をおいやしになったという簡単な聖書の記録から、わたしどもは罪のゆるしを得るためには、どのようにして彼を信じればよいかを幾分知ることができます。ペテスダの中風患者のことを考えてみましょう。哀れな病人は、38年もからだの自由を失っていたのです。しかし、イエスは、『起きて、あなたの床を取り上げ、そして歩きなさい』と仰せたまいました。

この病人は、『主よ、もしわたしをいやして下さるならばみ言葉に従います。』とも言えたでしょう。しかしかれは、キリストのみ言葉を信じ、自分がいやされたと信じてすぐに立って歩こうとしました。（努力した、英文）。歩こうとし(willed—意志) たときに実際に歩

くことができたのであります。かれはキリストのみ言葉に頼って行動しましたので、神はかれに力を与え、彼はすっかりいやされたのであります」 キ道61

3. 天国に行くためには我々の側の努力が必要である。

「一人一人戦うべき個人的な戦いがある。葛藤と失望を通して各々自分の道に勝利しなければならぬ。その葛藤からしりごみすると力を失い、勝利の喜びを失う。誰一人として、神でさえも、我々の側の必要な努力をしなければ、我々を天国に連れて行くことはできない」

5 T 3 4 5

「熱心な、忍耐強い努力なしに天国を勝ち取ることはできない。天の光に照らしてみると、あなたの生涯は今まで目的なく、ほとんど無用であった。今が時を償う機会が与えられている。そして小羊の血で品性の衣を洗う時である。もしあなたが彼の助けを必要と感じるなら、神はあなたを助けてくださるのである。あなたの義は神の前には何の価値もない。キリストの功績によってのみ最後に勝利者となることができるのである。もしあなたが永遠の救いにあずかるものになり得るならば、天国はほんとに安いものである」 3 T 3 3 8

「わずかばかりの戦い、または貧弱な努力ではあなたを世から引き離すことはできない。イエスはあなたを助けてくださる。あなたが熱心な努力をする度毎に、彼はあなたの側にいて、あなたの努力を祝福なさる。あなたは熱心に努力しなさい、さもなくば、あなたは失われるでしょう。一瞬もむだにしないで、今すぐ始めなさいと私は警告する。... 神の力によって、あなたの魂を救いなさい」 3 T 5 5 0

4. 努力せず、怠慢では救われない。

「人間は永遠の生命のために大きな戦いにおいて役割が定められている。彼は聖霊の働きに応答しなければならない。暗黒の力を打ち破るためには戦い（葛藤）が要求される。このことを達成するためにみ霊は彼の内に働くのである。しかし、人は消極的（受け身）でありながら、怠慢のうちに救われるものではない。彼はすべての筋肉を緊張させ、不死のために戦うときに、すべての機能を行使するように要求されているが、能力を提供なさるのは神である。どんな人間も怠慢のうちに救われるものはいない。主は次のように言われる。『狭い戸口から入るように努めなさい。事実、はいろいろとしても、入れない人が多いのだから。』

『狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きくその道は広い。そして、そこから入って行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。』」 8 T 6 5

5. 罪を追い出すことは魂自身の行為である。

「罪を追い出すことは、その魂自身の行為である。なるほどわれわれはサタンの支配からわが身を解放することはできない。だが罪から解放されたいと望み非常な必要を感じてわれわれ以外の、そしてわれわれ以上の力を求めて、叫ぶとき、魂の能力には聖霊の天来の力が吹き込まれ、その能力は神のみこころを成就することにおいて意思の命令に従うのである」

2 希 2 5 5、2 5 6

6. 神の力と人間の努力の結合

「神の霊がヨシユアを動かして、イスラエルの神の力の証拠が再び与えられるようにと彼に祈らせたのであった。だから、この願いは偉大な指導者ヨシユアの僭越を示したものではなかった。ヨシユアは、神が必ずイスラエルの敵を打ち破られるという約束を受けていたのであったが、あたかも成功はイスラエルの軍勢にのみかかっているかのように熱心に努力した。彼は人間の力の限りを尽くしてから、信仰もって神の助けを求めた。成功の秘訣は神の力と人間の努力の結合である」 人あ下135

7. 神との協力

「神がダニエルとその仲間たちに働きかけて、『その願いを起こさせ、かつ実現にいたらせ』ておられたときに、彼らは自分の救いの達成に努めていた（ピリピ2:13）。ここに協力という神の原則の成果が示されていて、これがなくては真の成功を達成することはできない。人間の努力は、神の力がなければ何の役にも立たない。そして人間が努力をしなければ、神の力も多くの者にとって何の役にも立たないのである。神の恵みをわれわれのものにするためには、われわれのなすべき分を果たさなければならない。神の恵みは我々の内に働いて、願いを起こさせ、実現に至らせるのであるが、我々の努力の代わりに与えられることは決してないのである」 国指下98

神のみ霊は我々の果たすべき分、すなわち志すことや実行することをもくろまれぬ。我々の意志と神の意志と調和させようと傾けるや否や、キリストの恵みは人間という器と協力しようと立ちかまえている。しかし我々の決心と決断的な行動と独立して、我々の働きを代わってすることはしない」 IHP 27

8. 人間の協力が必要

「全天は、人間の働き人と協力しようと待っている。それは人間がどんな者になれるかということの世界に示すためであり、まさに滅びようとしている人間を救うために神と一体になればどんなことができるかを表わすためである。自己を忘れて心の中に聖霊が働く余地を与え、神に全く献身した生涯を送る者の有用さには限りがない。身も魂も精神も神の働きにささげるものは、皆たえず肉体と知能と霊の力を新たに受ける。天の無尽蔵な資源が自由になるのである。キリストはご自身の霊の息、すなわちご自身の生命をお与えになる。そして聖霊は最高の力を持って頭と心に働く。そのとき、自分の誤った先入観、品性の欠陥、薄い信仰から不可能と思っていた勝利を恵みの力によって獲得できる」

ミニスリー 132

「我々の協力なしには何事もなさない」

2 SM 236

9. 聖霊は我々がどうすると働くか？

「魂が行動しようとする、すぐ... 聖霊は魂の決断に協力して注がれるのである」


TM 518

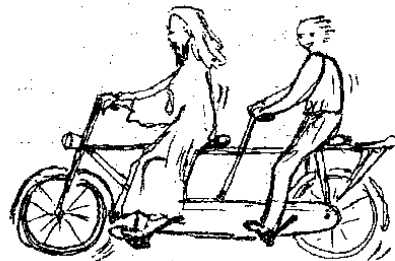
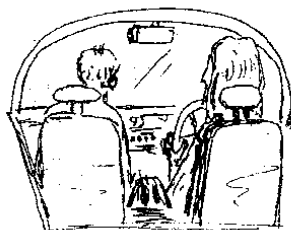
「神の働きがなければ、人は何の良きこともできない。神はすべての人に悔い改めを呼び掛けておられるが、しかし、人は聖霊が心に働かなければ悔い改めることさえできないのである。しかし、主は、イエスの方に一歩足を出す前に悔い改めたと思うまで誰も待たないように望んでおられる。救主はたえず人を悔い改めに引きよせておいでになる。ただ人はその引きよせる力にゆだねるだけである。そうすると、彼らの心は悔恨に溶かされるであろう」 8 T 64, 65

1.0. 「自分の救いの達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけ、... るのは神で」あるということはどういう意味か？

「救いを得る仕事は共同組合のようなもの、すなわち、共同作業である。神と悔い改めた罪人との間に協力がなければならない。これは品性における正しい原則を形成するのに不可欠である。人は完全を目指すにあたって、妨げとなることを克服するよう、ひたすら努力しなければならない。しかし、これを成功させるために全く神により頼むのである。人間の努力だけでは不十分である。神の力に助けられなければ全く効果がない。神が働かれ、また、人も働くのである。誘惑に抵抗するのは人の仕事であり、そのための力を神からいただくのである。一方には無限の知恵と憐れみと力があるが、他方には、弱さ、罪深さ、全くの無力さがある。

神はわれわれが自己に打ち勝つことをお望みになっている。しかし、神は、われわれの同意と協力がなければ、われわれを助けてくださることができない。聖霊は人に与えられた力と能力を用いて働かれる。われわれは自分では、意志と願望と性向と神のみ旨に一致されることができない。しかし、もしわれわれが喜んでそうするものになりたいとのぞむなら、救主はわれわれのためにこれをなし遂げ、『神の知恵に逆らって立てられたあらゆる障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ』て下さる（2 コリント 10：5）」 患下 176、177

 こんな例話を神学者から聞いたことがある。クリスチャン生活は自動車の運転のようなものである。あなたは助手席に座って、イエス様に運転してもらいなさい。自分で運転しようとするから過ちばかり犯すのだ。完全な運転手、イエスは道も知っている。あなたは何もしていいのだ。努力したり、罪と戦ったり、悪魔に抵抗したりするから、負けてばかりいるのだと。



もう一人の神学者はこう言った。上述の譬えは神学的に間違いだ。クリスチャンの生活は二人こぎの自転車に乗るようなものだ。前にイエス様に乗ってこぐ。あなたは後ろのペダルをこぐ。前に乗ってこぐ人が余計に力がある。しかし、後ろの人もこがなければならない。協力が必要なのだ。

11. 安易な宗教

「何の努力も克己も、世俗の愚かさからの分離をも要求しない安易な宗教を望む心が、ただ信じさえすればよいという一般受けのする信仰の教義をつくり上げた」 大下200

12. 変わってきた宗教！

「クリスチャン生活は戦いである。使徒パウロは信仰の良き戦いを戦ったが、その戦いはもろもろの支配と権威との戦いであると語っている。更に彼は言う：「あなたがたは、罪と取り組んで戦うとき、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない」と。全くそのとおり。今日罪はもてあそばれ、言い訳されている。み霊の鋭い剣、神の言葉は魂を切り裂かない。宗教は変わったのだろうか？サタンの神への敵意は静まってしまったのだろうか？宗教生活はかつては困難なものとして提示され、克己が要求された。今はすべて安易なものとされている。なぜこのようになってしまったのだろうか？神の民と自称する者たちは暗黒の力と妥協してしまったのだ」 5T222

(池宮城、金城)

朝日、9-30, 1990

日曜を完全休業に

西独、EC加盟国に提案

【ロンドン二十九日時事】

二十九日付の英紙「デーリー・

テレグラフ」によると、西独は

先週、欧州共同体(EEC)加盟

国に対し、日曜日をEC全域で

休業日として、一部を除きい

なる商業活動も行わないとの提

案を行った。今のところ、この

提案に反対しているのは英国一

国だけで、日曜日の完全休業が

ECで定着する公算が大きくな

ってきた。正式には十一月二十

六日に開かれるEC国民・社会

担当相会議で提案、決定される

見通し。

西独の提案は、日曜日の営業

活動を禁じた自国の制度をEC

各国にも採用させようというも

ので、新聞業界や火を落とせな

い溶鉱炉など一部を除いて、ス

ーパーマーケットの開店も禁じ

ることにする。

「神の律法が無視されて、背教が国家としての罪となる時、主はご自分の民のために働かれるであろう」 RH12-24, 1889

「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」詩篇119:125

「米国合衆国の人々は恵まれた民であった。しかし、彼らが宗教自由を制限し、プロテスタント主義を放棄して、法王教を支持する時、彼らの罪の升目は満たされ、「国家の背教」と天の記録の書に記されるであろう」 RH5-2, 1893

「特別な意味で、わが国で神の律法が無視される時がくる。わが国の支配者たちは、法令によって日曜休業令を強制することによって、神の民は重大な危機に会うであろう。わが国がその議会によって日曜休業令を強制し、7日目安息日遵守者に対して圧力を加え、宗教的な特権に関して良心をしぼる法令を発する時、神の律法の目的とするすべてのものがわが国において無視される。すると国家の背教に国家の墮落がつづくであろう」 RH12-18, 1888

サマソン - SDA に何を教える？

説教： マーク・ドゥワーテ

サムソンとペリシテの女、デリラによる裏切りは、聖書の物語の中で最もよく知られているものの一つです。しばしば、我々があまりよく知っている事、人々、真理などは、そのほんとの価値、意味を失い、ありがたく思わないことがあります。我々は知るべき事はみんな知っていると思っています。特に何回も何回も聞き、読んだことは。しかし、サムソンの物語に見かたを変えたときに、私は彼の経験から我々が学ぶ事のできるレッスンに驚いたのです。この説教はそれらのレッスンのいくつかをまとめたもので、我々が神の言葉をもっと深く研究するように刺激する事を願っています。

もちろん、サムソンは、彼の超自然的な力の事でよく知られています。彼の事にちなんで、スーペースに「サムソナイト」と名前がつけられているものもあります。私は名前の意味を調べるのに、興味があります。というのは、それはしばしばその人をよく表わしているからです。ところがサムソンの名前は、はっきりした意味がありません。それは「太陽の子」、または「小さい太陽」という意味にもとれるようです。おそらく、モーセがシナイ山から帰って来たときに彼の顔が神の栄光で輝いていたことを思いおこされるでしょう。サムソンの栄光は神の選ばれたリーダーであった時に輝いていました。また、彼の名前は、強いものという意味もあるようです。しかし、その解釈に賛同するものは多くはいません。サムソンは生まれる前から約束された、奇跡の子でありました。(師士記 13 : 2-5 読む) ここに不妊の女が子を生むと約束されるのです！そして、彼女に妊娠の時と生まれて後からのことについて特別な、厳格な教えが与えられます。(師士 13 : 4-5) ナザレ人とはどんな意味でしたか？ 彼は聖なる人でした。神に聖別された、神の奉仕のために分かたれた人でした。献身した人でした。聖なる義務にたずさわる誓いをした人でした。サタンはこれを知っていて神の選ばれた救出者を滅ぼすために策略を練ったのです。彼は、肉体的には強かったが、道徳的には弱かったことが物語から分かります。彼は一つの弱さのゆえに負けてしまいました。それは女でありました。彼はペリシテの遊女のところに通い、デリラと結婚し、ついに彼女によって滅ぼされるにいたりました。サタンは、しばしば男を滅ぼすために、特に神の特別な人を滅ぼすために女を用いてきました。アダムの生涯を見てください。ダビデ、ソロモンの生涯が女によって損なわれたことを考えてください。このことは、何も女は悪と言っているものではありません。女性のみなさん、あなたの生き方は、男性に良かれ、悪しかれ、大きな影響力を与えます。牧師たちはサタンのターゲットであると言われていきます。ジム・ベーカー、ジミー・スワガー（アメリカの人気TV牧師たち）、またSDAの中の牧師たちもそれが真実であることを証しています。心は熱すれども、肉体が弱いということです。ですから我々は、キリストが絶対に必要なのです。

我々はサムソンの基本的な物語は知っている者として、ただ、具体的ないくつかに焦点を合わせてみましょう。師士記の 13 : 5、7、13-14 に、マノアとその妻に神が特別な指示、教えをしておられるのを見ます。誤りがないように神は繰り返して教えています。今日も神は同じこ

とをなさいます。預言の霊はこの訪問した天使は、実はキリストであると言っています。これらの数節から、我々は子を生むこと、子育てについて幾つかの教訓を学ぶことができます。あなたは、あなたが食べるものによってできあがっていくように、あなたの赤ちゃんもそうです。食事のほかに、いかなる習慣でも胎児にさえ影響をあたえます。

「子供は、母親の習慣によって、よい影響を受けることもできるし、悪い影響を受けることもできる。母親は、子供の幸福を願うならば、彼女自身が原則に支配され、節制と自制を実行しなければならぬ。．．． 母親と同様に父親にも、この責任が負われている。．．． 両親が、彼ら自身の知的、体的特徴、性質、欲求などを子供たちに伝える。．．． 子供たちの激しい気性やゆがめられた欲望だけでなく、幾千という生まれながらの聴力や視力のない人、病気または白痴などの虚弱体質は、大部分が親の責任である」人あ下210

興味深い事は母親が妊娠時にしたり、食べたりする事が赤ちゃんに重大な影響を与えるという事実を医学が証明するずっと前にこの文が書かれたということです。だからサムソンのお母さんに神があのような厳格な指示を与えられたことは不思議ではありません。彼は生まれるときから神の人であるべきでした！サムソンは節制を教えらるはずでした。節制とは何でしょう？

「真の節制は、有害なものを全く使用せず、健康的なものを適度に使用することを教える。食習慣が、健康、品性、この世界での有用性、そして永遠の運命にどれほど深い関係をもったものであるかを自覚している者は少ない。食欲は、常に道徳力と知力の支配のもとにおいておかなければならぬ。からだは、心のしもべであるべきで、心がからだのしもべであってはならない」人あ下211

SDAは真の節制のことについては長い間教えられてきました。民として我々は「清い生活」、ベジタリアンなどの故に長く生きると研究発表されています。しかし、民として我々はなお我々に与えられた標準にはほど遠いのであります。最近、世の、また他の名ばかりのクリスチャンの不健康な方法と習慣に後戻りしているように見えることがあります。サムソンが神の民の中で神の人として選ばれたように、SDAは諸教会の中でも、神の教会として召されたものがあります。そしてサムソンのように我々も道からはずれてしまって我々に与えられた標準を掲げていないのです。「とにかく誰がこれらの標準など作ったのか？」という質問が多くの人々の間に流行になっています。答えは、サムソンとその母のために与えたお方と同じだということです！主は我々に多くの素晴らしい教えをお与えになり、我々の益のためにそうされたのです。それに従うように決心しましょう。

サムソンのお母さんを象徴的に見ることができます。彼女は最後の世紀のSDA教会を表わすでしょう。我々は教会の子サムソンです。我々の力は神を知る事、そして神に従って歩む事から来るのです。サムソンは髪の毛を失った時に力を失ってしまいました。しかし、彼の髪には実際の力はなかったのです。彼の毛は彼が特別な神の人である事の象徴であったのです。髪を切るということは、彼の力の源である神との関係を断ち切ることを意味していました。今日どうして教

会員の多くは力を失い、勝利を得ることができないのでしょうか？彼らの髪の毛が切られているのです！キリストと共に歩くと主張しながら、その証拠はほとんど見られません。世俗と多くのSDAとの間を区別する線はほとんど消え失せてしまっています。多くのものは教会外の人たちのように、食べ、飲み、着、読み、見、行なっています。多くの者は教会の標準を下げて妥協してしまいました。それが神に属している外的象徴なのに。つまり、彼らの「髪の毛」が切られているのです。我々にとって大して意味のない小さな事だと思っても、神が重要だとおっしゃることは重要なのです。サムソンはそれを知った時には遅すぎたのでした。我々はどうでしょうか？彼は彼の誠実さを少しづつ妥協させて、ついにはデリラの膝に眠らされてしまいました。目が覚めた時、彼はすべてうまくいっていると思っておりましたが、その時彼は神から離れて独りであり、すでに力が抜けていた事に気がついていたのでした。（師士記16：19-20）。多くの者は少しずつ真理を妥協させ、偽りの安全と神学的偽りという膝にまくらして寝ています。急速に終わりの事件が起きる時、目を覚まし、一人ぼっちであり、力が抜けさっていることに気がつくでしょう。（1テサロニケ5：2-6）。その時になって主を求めて、主に服従しようとしても遅いのです。その時に「毛を伸ばすのは」遅すぎます。

今日教会の多くの者は、丸ぼうずで、霊的なかつらをかぶってはげを隠そうとします。信仰によって救われると思っている人たちによってかぶられるかつらの一つは、何をやってもかまわない、何をしなくても救われるというものです。もう一つのかつらは、律法の文字に従うことによって自分を救おうとする人々です。両方のタイプとも神との真のつながりをもっていない人々であり、はげを隠そうとするものであります。我々の行ないはいつも自分の最も好きなものによって感化されるのです。神を愛するか、自分を愛するかによって違ってきます。イエスは言われました。「私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」と。主に従うのにサムソンのような力を持つ必要はありません。サムソンは何回も妥協したために墮落したのです。彼の失敗を繰り返さないようにしましょう。（ガラテヤ6：7-8）

「だれでも打ち負かされる必要はない。人間は、自分のよわい力で悪の力を征服するように、放任されていない。援助は手近にある。そして、だれでも真にそれを望む者には与えられる」

人あ下219

サムソンは自分の弱さの故に未信者のペリシテの女と結婚することを選んでしまいました。（師士14：1-2）。ここに、未信者との結婚を考えているSDAクリスチャンにとって留意しなければならない強い真理があります。決してそれはしないでください！！信仰を失い、惨めな姿に終わったサムソンから教訓を得てください。

「彼がちょうど成人し、神の任命を実行しなければならないとき、他のどんなときよりも神に忠誠をつくすべきときに、サムソンは、イスラエルの敵と結合してしまった。．．．キリスト教は、結婚関係に支配的影響を及ぼさなければならないのに、この結合の動機がキリスト教の原則に一致しないことがあまりにも多い。サタンは、神の民にサタンの部下と結合するようにしむけて、自分の勢力を強化しようと常に務めている。サタンはそれを実現するために、清められていない欲望を心に起こそうと務めているのである」人あ下212

これは大事な事であります。聖書は、我々は未信者とくびきを共にしてはいけないと言っています。(2コリント6:14)。多くの者はこの勧告を無視して滅びつつあります。象徴的に言って、教会は「異邦人」と「未信者の女」と、あるいはバビロンと結合してはならないのです(新しい神学、世の標準等) こういうことはかえって真理の感化力を弱め、我々の信仰の破船をまねくのです。この危険な時代に、我々は古い真理に立っていなければなりません。この運動の真理はすでに試され、真実とされたものなのです。サタンであろうとだれであろうと、サムソンがデリラによってだまされたように、だまされてはなりません。デリラという意味は「浮気女」という意味です。神の民の力の源を揺さぶるために神の民をもてあそぶのがサタンの仕事です。なんであろうと、誰であろうとあなたをイエスから引き離させてはなりません。そしてそのつながりを求める事を止めさせてはなりません。イエスなしには我々は沈んでしまうことをサタンは知っています。(1ヨハネ5:12)。

結局、サムソンは目を失って惨めな死にかたをしたように見えますが、しかし、失敗と欠点にもかかわらず彼の物語には良い知らせもあります。特にイエスの生涯と比較した時に。たとえば、イエスも、サムソンも奇跡的に生まれました。サムソンはうまずめから、イエスは乙女から生まれました。両方とも神の民の「救出」という特別な任務に召されました。一方は肉体的な力士で、一方は霊的な力士でありました。サムソンの生涯は浪費でしたが(特に最後の生涯は)、彼は本当に悔い改めていくらかの榮譽を残して死んでいきました。どうしてでしょう? 神はサムソンの心からの悔い改めの叫びに耳を傾けられ、彼が祈り求めた力を与えられたのでした。(師士16:28、30)。イエスのように、サムソンは祈りのうちに死んでいきました。多くの人々は祈って「生きる」ことさえしません。もしサムソンが生涯を墮落させる前に祈る事を学んでさえいたらどんなに変わっていたことでしょう。

サムソンはダゴンの神殿を破壊することによって神のみ名に榮を帰しました。そして彼を極みまで墮落させ盲にさせたペリシテ人の神々も共に。このように彼は罪の支払う報酬は死であることを証明したのです。イエスが十字架で腕を伸ばしてサタンの王国を滅ぼしたように、サムソンも腕を伸ばしてダゴンの神殿を破壊したのです。サムソンは異邦人と共に死にましたが、彼の名は信仰のリストにつらなっているのを見ます。それはサムソンは天国に入るとい意味でしょうか? 私は知りません。サムソンの失敗の後でさえ、愛と、哀れみをもたれた神に我々はつかえていることを感謝しましょう。サムソンの信仰は覚えられるに違いありません。なんとすばらしいあわれみでしょう!

神はペリシテ人からイスラエルを救いたまえとの願いに答えてサムソンをたてられました。イスラエルが初めから忠実であれば、彼らはこんな悲惨な状態に陥らなかったのです。(師士13:1)。神は預言の成就としてSDA教会を起こされ、死につつある世界に神の救いの真理を伝えるために立てられました。サムソンのように誰かが祈り、神を求め、熱心にみ言葉を求め全生涯をささげて神に仕える人が選ばれるはずです。我々は、サムソンと同じように、特別な働きが与えられています。我々はどのように応答するでしょう? あなたはどうなさいますか?



質問：バプテスマ、人数増加について

最近はどうしてバプテスマをそんなに急いで受けさせるのですか？ 以前とは違ってきていますが、いいのでしょうか？ 指輪、耳輪など標準を知らせないままバプテスマを受けさせているのが見受けられます。人数の増加が強調されていませんか？

「もし人気と人数を獲得するために標準を下げるなら、そして人数の増加を喜びの理由とするなら、あなたは大きい盲目を示している。もし人数が成功の証拠であるなら、サタンは自分の卓越していることを主張してもよいであろう。なぜなら、この世界において彼に従うものが大部分を占めているのだから。．．．喜びと感謝の原因となるべきことは、我が教会を構成している民の徳であり、知性であり、敬虔さであって、人数ではない」 5T31-32

「ある牧師たちと教会は人数増加欲するあまり、クリスチャンらしくない習慣や、行ないに対して忠実な証をたてない。真理を受け入れるもの達は、名前においてクリスチャンでありながら、行ないにおいて世的であることは安全でないと教えられていないのである。．．．信心の形を着るために、教会名簿に登録するために、わずかな自己否定と自己犠牲しか要求されていない。だから、まず、キリストにつながることなしに教会に加わる者が多い。この点においてサタンは勝利している。」 5T172

「我々の人数は絶えず増加しているが、我々のとりでを守る警戒さと熱心さは確実に減少している。もし目を開けるなら、これらのことはどこに向かっているかをすべての者が見るであろう」 4T649

「勝利のしるしを我々に与えるのは我々の人数でもなく、富でもない。それは、働きに対する献身であり、道徳的な勇気であり、魂に対する熱愛であり、うむことない、揺らくことのない熱心さである」 3T404

「成功は人数によらない。神は多数によると同じように、少数によっても救うことができになるのである。神は、神に仕えるものの数の大きさよりは、むしろ、彼らの品性によって、荣誉をお受けになる」 人あ下1、97

「その外面の装いではなく、世とは全くかけはなれた誠実な敬虔さの故に、神は教会を重んじられるのである。神は、その教会員がキリストを知る知識にどの程度成長しているか、また、霊的な経験にどの程度進んでいるかによって教会を評価なさる」 キ実277

「教会が純潔で無我の教会員であるときにのみ、神の目的を成就することができるのである。教会員名簿に名前を加えようとしてあまりにも早まった働きがなされている。教会員に加わるある者たちの品性に重大な欠陥が見られる。彼らを受け入れる人たちは、我々はまず彼らを教会に受け入れてからそれから彼らを改革しようと言う。しかし、これは間違いである。まず最初になされなければならないことは、改革の働きである。彼らと祈り、話しなさい。しかし、彼らが神のみ霊が彼らの心に働いているという決定的な証拠をしめすまでは教会関係において神の民と結合することをゆるしてはならない」 RH5-21, 1901



食べ方--少食--過食

1. 発明王のエジソン:

無線電話機、活動写真機、蓄音機、炭素白熱灯（アーク）等の発明を次々にやってのけ、近代科学文明に大きな貢献をしたアメリカの大発明家。特許千余种。別にこれといった学歴はなく、新聞売り子から身を起し、電信技師となっただけの経歴。世界的な天才的頭脳の持ち主。しかし、エジソンは、「自分は決して天才ではなく、ただ努力を重ねたにすぎない。」と言う。

その努力的頭脳を養った食物は、決してカロリーの豊富な肉食料理ではなく、パン、リンゴ、それに骨ごと食べられる小魚という、きわめて質素な日常の食事。分量も非常に少食。肉類はほとんど食べず、たまに食べても、1インチ（2.54センチ）立方ぐらいの小片にすぎなかった。

1931年10月に84才で亡くなった。

後藤新平は（医者から政界入りして名をなした）、エジソンに会い、称賛した。

「あなたはまさに、第2の造物主です」

「その言葉は当たっておらぬ。辛抱強い労働者といわれれば、わたしは満足ですよ」

日本の製薬王といわれた星一氏、質問の矢を飛ばした。

「あなたは どうして、そんなにおびただしい発見をなさるのか？」

「考えるからね」

「どうしてそんなに、考える時間があるのですか？」

「あまり眠らぬからね」

「どうしてそんなに、眠らずにいられるのですか？」

「あまり食べぬからね」

星一氏があっけにとられた表情でいると、

「人が8時間も寝る間に、私は考えている。食べると眠くなるから、私はなるべく食べぬことにしているのさ」とこともなげに言った。

靈感の言葉

「食欲に耽溺することは、知的な啓発と魂の聖化に最大の障害となっていることを我々は学ぶ必要がある。健康改革者と自称しながら、我々の多くは正しく食していない。食欲に耽溺することは、肉体的、知的衰弱の最大の原因となっていて、それが薄弱さと早死にのほとんどの原因となっている。霊の純潔を求めている者は、キリストの内に食欲を抑制する力があることを覚えよう」 9T156

「**過食**によって頭脳は無感覚にされ、ほとんど麻痺されてしまう」 HL689

「過食は過労より組織に悪い影響を与える」 HL406

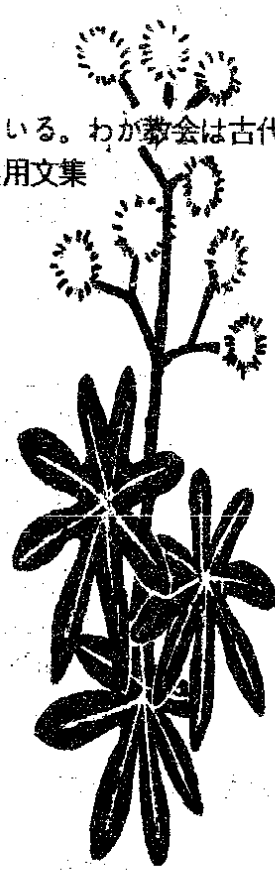
「どんなに良い質のものであっても生きた機械をつまらせ、その働きを妨げる」 CT&BH51

アンカー・バック ナンバー について

アンカーは無料になっておりますが、バック ナンバーの欲しい方は有料でさしあげます。刷り足しますので実費をいただきます。

創刊号 --- 100円 4号は在庫がありますので無料です。
2号、3号、5号は150円です。

- 創刊号
 - 1. アンカー出版にあたって
 - 2. 質問コーナー：罪の取り除かれるのは再臨の前か、再臨の時か？
 - 3. 自分で調べよ：証の書からの引用
 - 4. ゆだねられた使命
- 2号
 - 1. 「完全」の約束に対する不信： 教会の先駆者たちの考えからどのように変わってきたか？
 - 2. 信徒からの声
 - 3. 人の性質についての研究：証の書から
 - 4. 古代イスラエルと現代イスラエル：
SDAの教会は古代イスラエルの歴史を繰り返している。わが教会は古代イスラエルよりもっと危険である。預言の霊の霊からの引用文集
 - 5. 神の信仰：どこまでも信じ、望み、期待する神の愛。
 - 6. TV --- 現代の怪物
 - 7. 信仰から学ぶ教訓：E・J ワゴナー
 - 8. 重要な事と重要でない事：
- 3号
 - 1. 1888年 --- 勝利か敗北か？
 - 2. 信仰から学ぶ教訓：A. T. ジョーンズ
 - 3. アンカー --- 堅固な土台 --- 現代の問題点
 - 4. 人の能力と才能 --- 人の性質
 - 5. 完全な品性に関する質問と反対
- 4号
 - 1. キリストの性質
 - 2. 信仰から学ぶ教訓：A. T. ジョーンズ
 - 3. 人の想像 --- 人の性質
 - 4. レビ記に見る三天使の福音
 - 5. イエスの品性の美しさを見る
 - 6. 1888年のメッセージとは何か？ その1
 - 7. ニュース
- 5号
 - 1. キリストの性質
 - 2. 信仰から学ぶ教訓
 - 3. 真理の宝石：努力について --- その1 ---
 - 4. 瞑想
 - 5. 証の書の誤訳、適訳
 - 6. 最も重要な働き --- 親業：ホワイト夫人の晩年に言われたこと
 - 7. 時兆：東欧民主化の激変、世界化のの意味
 - 8. 後の雨が今降っているか？



お知らせ

“Country Living”
「いなかの生活」がアメリカから入荷
しました。波平三枝子さんからのプレゼン
トです。送料は頂きますが、本は無量でさ
しあげます。

「我が民は都会から離れて、田舎に移り、
自分たちの食物を作れるようにしなさいと
主は幾度も幾度もわたしに教えられた」

CL9. 10

今こそこの使命に留意すべき時ではないで
しょうか？

- 聖所からの光. 750円
- 図解説明. 350円
- テープ. 1000円

仰いで生きよ. 100円



- 今までの広告にありましたプリントは次回までに値段を再検討して、お知らせします。安く印刷できるようになりましたので。
- この出版物は信徒によるもので、皆様の祈りと自由献金によって続けられます。尚、資料代や献金などの送金には郵便振替をご利用ください。振替口座番号は

鹿児島 8-12121 サンライズミニストリー

です。

住所 〒905-04

沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471番地

サンライズ ミニストリー内 アンカー係

☎ 098056-2783, (5083 FAX)

編集人：金城重博



1990年10月